

安芸灘諸島における土木遺跡の調査

西日本高速道路エンジニアリング中国(株) 正会員 ○藤田 尚徳
 正会員 楠橋 康広

1. はじめに

地域にある街道や石雁木等, 土木遺跡を調査・分類し, 土木技術者の視点から考察することは, 地域に埋もれた資源や魅力を掘り起こす. また, 現役公共施設の機能と併に活用すれば, 経済的な地域活性化の手段となりうる. 本論文では, 地域の遺跡を抽出・分類し, 現地調査と文献資料によって土木技術者の視点から考察を行うとともに, 現役公共施設も合わせて調査し, 活用すべき機能を抽出して, 地域の資源や魅力を活かした地域活性化策を提案する. 今回はケーススタディとして, 平成20年に開通した豊島大橋により, 下蒲刈島, 上蒲刈島, 豊島, 大崎下島までが本州側の広島県呉市と陸続きとなった安芸灘諸島付近を取り上げる.

2. 資料調査

2.1 資料調査概要

調査する遺跡は, 現地にある遺跡および土木構造物の中から①地域の魅力②地域の課題③公共性④土木技術のそれぞれの有無に着目し, 蒲刈町史, 下蒲刈町史, 豊浜町史, 豊町史等を参考に抽出した(以下「土木遺跡」とする). また, 本地域の遺跡の傾向を把握するために, 抽出した土木遺跡をWEBで公開されている「近世以前の土木・産業遺跡」を参考に分類した(表-1). 分類にあたっては, 全国に古代から存在し, 構造や規模が地域の指標となり, 土・石構造技術がよみとれる「古墳」を「6.防衛・その他」加えている.

表-1 近世以前の土木・産業遺跡の分類表

記号	分類項目	分類項目
Ⓝ	交通(道路)	道路関連、道標等
△n	交通(河川・海洋舟運)	常夜灯、防波堤、灯台等
Ⓜn	農業・漁業・鉱業・産業	用水関連、各種鉱山等
◇n	防災	堤防、砂留等
□n	衛生	井戸、湧水、上下水等
▽n	防衛・その他	台場、狼煙場、(古墳)等

2.2 資料調査結果

文献及びWEBによる調査結果を図-1に示す. 交通に関する土木遺跡としては, 海運交通施設である地乗り航路の中継点である三ノ瀬港の波止, 長雁木, 常夜灯, 沖乗り航路の中継点である御手洗港の波止, 長雁木, 常夜灯があげられる反面, 道路交通に関連する土木遺跡が少ない. 産業遺跡としては, 上蒲刈島の石灰岩山, 下蒲刈島の塩浜新開, 急斜面に築かれた柑橘栽培用の段畑があげられる. 堤防, 砂留などの大規模な防災施設は見られないが, 海上交通網の要所には台場, 砲台跡等の防衛施設が見られる. また, 大崎下島には, 水源地や水組などが見られ, それぞれの島で上水道施設が確保されていたことが分かる.



図-1 資料調査結果

キーワード 安芸灘諸島連絡架橋, 土木遺跡, 地域活性化

連絡先 〒733-0815 広島市西区西観音町2-1 第3セントラルビル6F

TEL 082-532-1411

3. 現地調査

資料調査後、土木遺跡と本地域の現在の関わり、また、公園や大型公共施設等、活用すべき人が集う場所と現状を把握するため、とびしま海道サイクリングロードを中心に土木遺跡と公共施設の現地調査を行った。

代表的な土木遺跡としては、規模の大小はあるが、常夜灯、波止等海運交通施設が地域に共通する遺跡として挙げられる。石灰山等は当時の痕跡をみることはできないが、「白崎」という地名から、石灰岩の山の存在を推察することができる。また、江戸時代末期に開発された塩浜新開は、広大な平地を利用して大津泊庭園として憩いの場として整備されている。防災施設としては、近年整備された護岸施設および防波堤は見られるが、砂留等の河川砂防施設等は沿道からでは確認できなかった。城跡等の防衛施設が存在していた高台は各島に存在し、瀬戸内海の要害であったことが窺える。

4. 安芸灘諸島の魅力の活用

現地調査後、地域の魅力や課題を探るために、文献資料を基に 5W1H 法によって各土木遺跡の考察を行った。その結果、①大崎下島に見られる太高山貯水池や各集落の水組（簡単な取水・配水施設をそなえたもの）から生活用水の確保②港湾施設の土木遺跡から島内における通行機能の確保③下蒲刈島に見られる塩浜新開、上蒲刈島の石灰岩山、各島に見られる段畑から産業開発等、本地域での課題を推察することができた。

(1)活用すべき地域施設

i) 港湾施設および航路

島の集落は港を拠点に広がっており、各島の港を拠点とした地域活性化策の構築は重要である。

ii) 安芸灘諸島連絡架橋

安芸灘諸島連絡架橋によって確保された本土から岡村島までの陸路による交通機能の活用は重要である。

iii) 貯水池等施設

広島市から海底トンネルによって、余剰となった貯水池等の水資源の活用を進めていくことは重要である。

(2)安芸灘諸島地域活性化策の提案

i) 航路を含めたネットワークの整備

厳しい経済情勢の中では道路網の整備にも限界がある。海洋という自然のインフラと ICT 技術を駆使した旧港湾施設、航路を含めた島嶼部のネットワーク再整備は、地域間交流を活性化させるためには重要である。

ii) 道路の階層的整備

上蒲刈島は、線形のよい通行機能に優れた道路が集落を離れた地域を通過し、それぞれの地域へ多機能道路がアクセスする階層的な整備となっている。他島においても、機能を十分に発揮できる道路網が重要である。

iii) 産業の再構築

広島市からの上水道が確保された今、貯水池等の用水および耕作放棄地となった段畑の活用が重要である。近年の気候変動も踏まえ、段畑用地と貯水池用水の活用による新たな農作物栽培への取組が望まれる。

5. おわりに

近年、土木遺跡のデータベースや、遺跡地図などが WEB 上に公開されており、インターネット環境を使用すれば地域における土木遺跡情報の収集は難しくない。適切な分類を行い、考察を行えば、手軽に古くからの地域の課題や対策が読み取ることができる。今回の事例でいえば、港湾施設からは海上交通の拠点として繁栄の歴史を読み取れた反面、産業遺跡からは地域としての自立への努力を感じることができた。これら、土木遺跡から地域の歴史を読み取ることが、地域活性化計画を実施する前段階の下準備として有効と考える。

参考文献

- 1)WEB(近世以前の土木・産業遺産): <http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~baba/>
- 2)WEB(広島県遺跡地図) : <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/bunkazai/bunkazai-map-map.html>
- 3)豊浜町史編さん委員会：豊浜町史，2015。4)豊町教育委員会：豊町史 本文編，2000。
- 5)蒲刈町史編集委員会：蒲刈町史，1995。6)下蒲刈町史編さん委員会：下蒲刈町史 図説通史編，2007。